

街道や池、祈りの場...

個性豊かな城東の風土



講演する西村教授



面影が残る善師野宿

西村教授は最初に城東地区の個性として、次の通り指摘しています。

- ①山あり谷あり複雑な地形の中に多様な集落が散在している。
- ②市街化が進むところと、自然の豊かな里山の2つに分かれている。
- ③大きな谷地と小さな谷地が今井と善師野にあり、調和がとれている。
- ④東部丘陵という大きな台地の前面に富岡、塔野地、前原という集落が散在している。
- ⑤畑ではなく田が全面に広がっている。

補足して、善師野と今井はどちらも谷が似ており、山側に神社が配置されており、都市と農村の中間のような形態で、善師野宿（伏屋）は中山道の近江宿と似ている。

富岡、塔野地、前原は開かれた土地であるが、今井、善師野は閉じられた土地です。富岡は小高い丘にできていますが、塔野地は地形が複雑、前原だけが平坦なところ。田口洞は谷になっていて、集落はない。不思議だ。同じ規模の谷なのに、今井とは違う。前原新田は入鹿池築造に伴い集団移住した人たちの集落。これらの現象や実態を冷静

に眺める。実に面白い光景です。

城東地区の印象としては

- 木曾街道を初めとする、古くからの街道沿いに人々の息吹が感じられる。
- そこに面した神社や寺、祠、石碑のたまたまは周囲の景観に溶け込んでいる。
- 水神様や山神様が見受けられ、人々との祈りの構図が感じられるほか、御嶽信仰も見られる。
- 一見分かりづらい見える東部地域ですが、細かく見ていくと個性があつて面白い。
- 洞地形であるのに灌漑、池が多いことから生活の匂い

が感じられる。

これらのことから、今後の城東地区のまちづくりについて次の通り提言しています。

- ①里山と共にあるライフスタイルをこれからも大事にしてほしい。
- ②大きな谷と小さな谷の空間の構成を大切に。
- ③背後の山・池と正面の田んぼの構成が興味を引く。
- ④随所に見える祈りの形も興味深い。
- ⑤それぞれにある個性を考えてほしい。
- ⑥新開発の際には、各地域の個性を尊重するまちづくりをしてほしい。
- ⑦池を作り出してきた文化を大切に。
- ⑧木曾街道などの通りを軸にまちづくりを考えてほしい。

以上が西村教授の講演要旨ですが、我々が何の気なしに通っているまちや里山の風景も、当たり前のように感じ何の感慨もありません。

第三者の見方を参考に、「我々のまちはこんなに素晴らしいのか」と感心させられます。

自分たちのまちに、もっと自信を持ちたいものです。

(文責・山田)

広報

いぬやま



2016
2/1
Feb.
No.1227

人が輝き 地域と生きる “わ”のまち 犬山

里山を活かしたまちづくり

城東 西村・東大教授が提言



西村幸夫氏（略歴）
1952年、福岡市生まれ。
東京大学工学部都市工学科卒。
同大学院修了。工学博士。
東京大学教授、同大学副学長、
アジア工科大学助教授、コロンビア大学客員研究員などを歴任。専門は都市計画、都市保全計画、都市景観計画など。



馬頭観音が祭られている祠（今井）

歴史的なまちづくりの権威でもある東京大学の西村幸夫教授に毎年、市内各地のまちづくりについての指導や講演を続けていますが、今回は12月6日、「犬山東部の里山で、地域の自然と歴史資産を活かしたまちづくりを考える」と題して開かれました。

城下町、羽黒、桑田、栗栖が開かれ5回目。今回は自然を舞台に、そこに生きる人々との関わりを歴史的な立場から捉えて興味深く説明しています。

西村教授は「犬山市は先人が残した歴史遺産が豊富ですが、一方で城東地区は人間の息吹が感じられる里山にも恵まれたところ。城下町が持つ文化と東部地域の里山が育んだ豊かな文化に関連性を持たせることで、犬山全体が活きるストーリーをつくることのできるため、こんな里山と共にあるライフスタイルをこれからも大切に、活かしてほしい」と訴えています。

(2ページに続く)